

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番 77	福山市立湯田小学校
最終更新日	2026年(令和8年)4月1日	

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	学びに向かう力 コミュニケーション力
○補修学習や 40%未満児童への取組を行い、学力向上に向けて努力している。 ○自己肯定感を高める取組を学校全体で進めている。 ●タブレット等の利用時間と学力との関係を整理しながら、タブレットによらない「書く」という活動も大事にしてほしい。 ●安心安全な学校づくりさらに推進してほしい。	○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える、選ぶ、決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。 ○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。 ●家庭学習時間が少ない。スマホやゲームの利用時間が長い。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	共に学び、共に支えながら未来を切り開き、地域・学校に貢献する児童生徒
		中学校区として 統一した取組等	○児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。

III 自校

学校教育目標
自ら考え、判断し、心豊かに行動できる子どもの育成

現 状
<児童生徒> ○自己選択・自己決定をしながら授業に取り組んだ。(児童意識アンケート83%) ○全国学力・学習状況調査では、国語科において伸び、40%未満の割合が減っている。(市教委調査 8.5%) ●算数科では課題が大きく、福山市学力定着状況調査では 40%未満の割合が増えている。(市教委調査 29.9%)
<授業> ○国語科、算数科の授業において、自己選択・自己決定場面を位置づけた単元計画を作成し授業改善を行った。(意識アンケート97.3%) ●つまずきを見取り、形勢的評価を生かした授業づくりにおいては課題がある。83% ●算数科においては個々のつまずきが解消できない児童もあり、当該学年の「数と計算」領域に大きな課題がある。

育成する 資質・能力	A コミュニケーション力 B 思いやりの力 C 課題解決の力
めざす 子ども像	1・2年 A 自分の言葉で伝えることができる。 B 友達や自分のがんばりを見つけることができる。 C 課題について解決方法を考えたり解決しようしたりする。 3・4年 A 順序だてて分かりやすかつたえことができる。 B 一人一人の違いを理解し、認め合うことができる。 C 既習の内容を使って課題解決に向かおうとする。 5・6年 A 相手の立場を理解して、筋道を立てて伝えることができる。 B 相手の立場に立って考え、意見の相違によらず互いに尊重し認め合うことができる。 C 様々な方法で調べたり考えたりすることで、よりよく解決しようとする。

研究	テーマ	子どもが「わかった、できた」を実感できる授業づくり ～「読むこと」・「数と計算」領域における授業改善を通して～
	内容等	○教材研究の充実～教科の見方・考え方を働かせた教科の本質にせまる～ ・「読むこと」におけるフレームリーディングの活用 ・「数と計算」領域の定着度を高めるための授業改善と工夫
めざす授業の姿		○自己選択、自己決定ができる授業 ・問い(課題)を子どもに届ける。 意図的に問い(課題)を仕組み、子どもたちと予想や美門などのやりとりを通して、子ども自身の問い(課題)となるよう工夫する。 ○学びを調整し、粘り強く学び続ける授業 ・自分の学びを振り返る時間を設定する。 子ども自身が「わかったこと」「できなかったこと」を自覚する場を設定することで、「自分の成長」を自覚できるようにする。 ○段階に応じた3つの「きく」を身に着ける授業 ・対話のゴールイメージを持たせる。・子どもの発言をつなぐ。・価値づける。

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
2	重点課題の克服に向けた授業改善を通じた学力の向上	1	継 続	○学力調査等の分析による授業改善を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのめざす授業の姿を意識した授業改善に取り組む。</li> <li>・児童のつまずきを把握し、「授業づくりポートフォリオ」を活用し、適切にアプローチできる授業改善に取り組む。</li> <li>・朝タイムの内容を統一したり、40%未満の児童の学力補充をしたりするなど、基礎学力の定着に取り組む。</li> <li>・計画的に見通しをもって宿題を出し、やりきらせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科、算数科において「わかった、できた」と実感できる児童を80%以上にする。</li> <li>・「読むこと」「数と計算」領域における単元テストにおいてクラス平均を80%以上にする。</li> <li>・12月実施の標準学力調査の正答率が4月実施の標準学力調査を上回る。</li> <li>・標準学力調査における40%未満の児童を国語科15%未満、算数科25%未満にする。</li> </ul>								
	人権兼意識を高める教育活動の推進	2	新 規	○人権意識を高める取組を通してよりよい自己の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会との連携による発達支援的生徒指導の取組を行う。</li> <li>・学校行事等を通して相互評価活動に取り組む。</li> <li>・学習と生活について考えることを通して、よりよい生活の仕方を身に付けさせる。</li> <li>・学級づくりミニ研修の実施、きらりルームの活用方法の工夫等、安心して通える居場所づくりの取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感における肯定的評価が85%以上</li> <li>・自己有用感における肯定的評価が85%以上</li> <li>・ゲームや動画視聴の時間を見直し1日3時間以上の児童が20%以下</li> <li>・不登校児童の割合2%未満</li> <li>・学校に居場所がある児童85%以上</li> </ul>								

安全で健康的な生活を創る力の育成	3	継続	<p>○自己目標を設定し、進んで体づくりに取り組む児童を育成する。</p>	<p>・高めたい体力を選択させ、運動の内容を自己決定して取り組む。</p> <p>・委員会活動による体力向上の取組を設定し運動意欲を高める。</p> <p>・体育科の研修を生かして運動量や質の向上を図る。</p>	<p>・体力を伸ばすことができた実感する児童が80%以上</p> <p>・運動意欲の向上が見られる児童80%以上</p> <p>・体育科の授業における自分の成長を実感できる児童が75%以上</p>													
信頼される学校づくりの推進	4	新規	<p>○地域と繋がるカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>○学校環境整備の向上</p>	<p>・生活科・総合的な学習の時間を中心に地域の人的、物的資源を活用した教育活動をカリキュラムマップに反映させ、実施する。</p> <p>・計画的な業務の推進を図り、子どもと向き合う時間の確保に向けた取り組みを行う。</p>	<p>・地域の方と連携した学びへの肯定的評価が80%以上</p> <p>・学校の取組に関する保護者満足度80%以上</p> <p>・教職員の「やりがい」等における肯定的評価90%以上</p> <p>・時間外在校時間45時間以内の職員が100%</p>													

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	達成度	評価基準
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。